

令和2年度 第1回市民と市長の座談会

会 議 報 告

事務局 企画財政部広報秘書課広聴係

開催日時	令和2年8月23日（日）午後2時00分～4時00分
開催場所	市民会館・萌え木ホール
参加者	男性 4名 女性 3名 計 7名
会議次第	1 開 会 2 市長あいさつ（市政報告） 3 懇 談 フリーテーマ 4 閉 会
主な意見	<ul style="list-style-type: none">・ 各市のコロナウイルス感染者数について・ 新型コロナウイルスのPCR検査について・ 消毒・手洗い等のコロナウイルスへの感染予防について・ 学校施設の開放について・ 清掃関連施設の状況や関連する運搬ルートについて・ 高齢者学級と市民アカデミーについて・ 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）について・ コロナウイルス感染対策における職員のスキルについて・ 新型コロナウイルスのPCR検査後のケアについて・ 冬に向けてコロナウイルス感染症対策について・ 自然災害とコロナウイルス感染症対策について・ 高齢化社会について・ 引きこもりと精神障がい者への支援について・ 地域での情報発信（民生委員の欠員）について・ 滄浪泉園と三楽公園の鍵の施錠について・ 小金井市環境楽習館について・ C o C oバスの路線・運営について・ 三楽の森の隣の空き地の木の伐採について・ 公民館の利用について・ 敬老会について・ 集会施設の利用申請について
懇談内容	別紙のとおり
その他	手話通訳者 2名 保育士 2名

令和2年度第1回 市民と市長の座談会

令和2年8月23日

1 開 会

○司会者

皆様、こんにちは。本日は御参加いただきまして、誠にありがとうございます。私は本日の司会進行を務めさせていただきます、広報秘書課長の天野と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。なお、本日は新型コロナウイルス感染症対策といたしまして、着座のまま、また、マスク着用にて進行させていただきますので、聞こえにくい点があるかもしれませんが、御理解のほど、よろしくお願いいたします。

初めに、配付物の確認をさせていただきます。1点目が、本日の次第でございます。2点目が、アンケートになります。3点目、令和2年度施政方針。4点目、令和2年度小金井市予算の概要、こちらは主な事業の紹介ということで、14ページから26ページまでを抜粋したものでございます。続きまして、新型コロナウイルス感染症小金井市緊急対応方針（第2弾）。同じく、新型コロナウイルス感染症小金井市緊急対応方針（第3弾）。市報こがねい7月1日号、5面のPDF版、こちらは、令和2年第2回小金井市議会定例会補正予算における新型コロナウイルス感染症対策についての記事で、緊急対応方針（第2弾）で実施する施策の予算規模を示したものでございます。それから、令和2年第2回小金井市議会臨時会補正予算における新型コロナウイルス感染症について、こちらは、緊急対応方針（第3弾）で実施する施策の予算規模を示したものでございます。あらかじめ皆様に個別に用意したものは、以上8点でございます。このほか、受付で自由にお取りいただけるものとして、「みんなで築こう人権の世紀」という小冊子とクリアファイル、「小金井市はこんなところです。」というリーフレット、「小金井の坂と遊歩道マップ」、障害者（児）・家族防災のパンフレット、以上4点が置いてございます。

開催に当たりまして、事務局より御説明申し上げます。この座談会は平成28年度から開始しているもので、毎年、年に4回程度、市民の皆様と市長とのフリートークということで開催しております。本日は、本年度第1回目の開催でございます。本日の進め方でございますが、初めに市政報告ということで、重要課題の進捗状況につきまして、市長の西

岡より簡単に報告させていただきます。その後、意見交換ということで、皆様から自由に御発言いただき、それに対しまして市長がお答えするという形で進めさせていただきます。懇談に入る前に、事務局より5点ほど、御了承いただきたいと存じます。1点目、懇談中は、議事録作成のため録音をさせていただきます。2点目、懇談の様子を撮影した写真をホームページに掲載させていただきます。写真を掲載することで御都合悪い方がいらっしゃいましたら、今この場で、挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。懇談中は、御発言される時も含めまして、必ずマスクを着用していただきたいと思います。御発言をされる方にはマイクをお渡ししますが、その都度、消毒をいたしますので、通常より時間がかかるかもしれませんが、御了承いただきたいと思います。最後、5点目でございます。本日の終了時刻は午後4時までとなっております。会場を撤収する都合上、終了後につきましては速やかに御退場いただきますよう、御協力をお願いいたします。

では、次第に従いまして、市長の西岡より御挨拶と市政報告をさせていただきます。

2 市長あいさつ（市政報告）

○西岡市長

皆様こんにちは。小金井市長の西岡真一郎でございます。本日は、大変にお暑い中を、また、貴重な日曜日にもかかわらず、市民と市長の座談会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染防止の対策といたしまして、マスクを着用したままでお話をさせていただきます。聞きづらい点もあろうかと思いますが、御理解のほど、よろしく願いいたします。また、本日も、手話通訳者の皆様方に手話の御協力をいただいております。フェースシールドをつけての手話通訳ということで、御尽力をいただいております。ありがとうございます。よろしく願いいたします。

本日は、令和2年度第1回市民と市長の座談会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。この座談会は、市民の方との対話の場を設けるために、市長に就任をさせていただいた翌年から、平成28年度から毎年、開催しているもので、今年で5回目、年に4回開催しています。本来は今年5月に開催する予定でございましたけれども、緊急事態宣言発令中ということで、延期をさせていただきまして、この8月、本日と来週の火曜日となったところでございます。3回、4回目につきましては、年末から新年にかけて、恐らく11月頃を予定しているところではありますが、引き続き開催していきたいと思って

おります。通常は、皆様方にどなたでも御参加いただけるような設定をしておりましてけれども、緊急事態宣言解除後におきましても、御承知のように、新型コロナウイルスの感染拡大が続いている状況であるため、事前申込みという形を取らせていただいておりますので、御理解のほど、よろしく願いいたします。また、これまでは座談会形式ということで、なるべく気軽な、発言のしやすい雰囲気を出すようなしつらえをしてみましたけれども、このような状況でございますので、間隔を空けての座席の配置とさせていただきますこと、どうか御理解と御協力をお願い申し上げます。この座談会につきましては、市民の皆様方から様々な観点からの御意見をいただき、そういった市民の皆様方からの声を市政運営の参考にしたいと考えておりますことから、基本的には毎回、特にテーマを設定せずに、フリートークという形で開催をしております。日頃から市政に関して感じていることや御提案、御意見など、皆様方から忌憚のないお声をお寄せいただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

今日は、時間的には16時には終了させていただくスケジュールでございますので、これから約2時間となります。冒頭、私のほうから正味20分程度、お時間をいただきまして、市政の近況報告を行わせていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。あわせて、お配りしております資料につきましても、お目通しをいただきながらお話を聞いていただければ幸いです。それでは、よろしくお願い申し上げます。

初めに、小金井市の状況の中で、重要なバロメーターとして人口があります。令和2年8月1日現在、小金井市の人口は12万3,264名で、前月7月に比べまして202名の増となったところであります。そして、世帯数は6万1,661世帯ということで、12万人、6万世帯、今日のニュースでありましたけれども、東京都全体の人口が初めて1,400万人を下回ったということで、記録を取り始めてからかなりの年数がたっておりますが、ずっと増加傾向を続けてきた東京都の人口が、初めて東京都全体で減少の数値を示したというニュースがありました。その傾向の分析についてはこれから行われることと思いますが、ある新聞の専門家の方の御意見では、やはり新型コロナウイルス感染拡大の状況が、東京への一極集中への波に何らかの待ったをかけているのではないかと思われるとのコメントがありました。そういう状況もあるのかもしれませんが。働き方改革などが進み、今起きている様々な社会現象を鑑みた結果、そういう国全体の動きであるのかもしれませんが。

しかしながら、小金井市におきましては、現状では、人口は微増状況がずっと継続しているところであり、またさらに、今年度に関しましては、ここ数年以上の人口の伸びを見

せているところでございまして、特にファミリー世帯の方々の転入超過という傾向でござい
ます。関連いたしまして、小金井市は子どもたちの数もこれから増えていくと見込まれ
ている状況でございまして、引き続き、子育て、子育で、教育環境の向上に一生懸命に
取り組んでまいりたいと、かように考えているところでございます。

初めに、皆様方も大変御関心が高く、毎日、終日ニュースとなっております、新型コロ
ナウイルス感染症対策についてでございます。今を生きる、この日本の私たちが初めて経
験をする未知のウイルスに対するワクチンや特効薬というものは、いまだ発展途上であり
ます。中長期化するという状況が見込まれております。去る5月25日には、国による緊
急事態宣言が解除されましたけれども、その後も感染拡大の状況は収まらず、患者の発生
数は、今もなお、気を緩められない状況であります。小金井市役所の中も、様々な分野で
業務を担っておりますが、関連する多くの事業者の方々も含めまして、緊張状態がずっと
続いているという印象でございます。小金井市といたしましても、感染拡大の防止に連日
連夜、取り組んでいるところでございます。しかしながら、この土曜日、日曜日で、小金
井市内の患者陽性判明累計数は90名を超えたところでありまして、引き続き、まだ感染
の状況は厳しさを増している。東京都の感染状況のバロメーターも今、一番高い危険レベ
ルになっておりますし、医療提供体制を示す、二つ目のバロメーターは、四つのうち上か
ら二つ目、逼迫しつつあるという状況でありまして、予断を許さない状況となっております。
小金井市では、新型コロナウイルス感染拡大に対応し、市民生活を守るため、4月2
4日には、新型コロナウイルス感染症小金井市緊急対応方針（第1弾）、5月19日には
（第2弾）、8月12日には（第3弾）を作成いたしました。お配りしてございます資料
を御覧いただければと思います。また、先週木曜日、8月20日に開催をさせていただきました
小金井市議会臨時会におきましては、（第3弾）に関連する補正予算、約7億1,7
00万円の予算につきましては御議決をいただいたところでございまして、その支援策の
実施などに鋭意取り組んでいるところでございます。緊急対応方針（第3弾）には一部、
9月1日から開会される第3回市議会定例会で予算化する内容も含まれておりますけれど
も、今後、この方針に基づきまして、四つの柱を立ててございます。「いのちを守る」、
「くらしを守る」、「地域を守る」、「市民サービスの基盤を守る」の四つを柱として、
感染拡大の防止と市民サービスの基盤を守る対応をしてまいりたいと思っております。
感染拡大の防止と市民の皆様、事業者の皆様への支援を中心に、様々な施策に取り組んで
まいりました。予算規模といたしましては、まず、緊急に必要なものは予備費や流用とい

う手法を取りまして対応しつつ、これまでには特別定額給付金や、これは国の制度でありますけれども、子育て支援の関係で、約125億1,000万円の予算案を、こちらは緊急性があったために専決処分をさせていただいております。その後、第2回定例会までに約13億1,000万円の(第2弾)の関連予算、そして、先般の臨時会では約7億2,000万円の規模の対策費を御議決いただいたところございまして、国の特別定額給付金の約125億1,000万円などを除きますと、この間、小金井市といたしましては、国や東京都の助成交付金、様々な補助制度を活用しつつ、総計約20億3,000万円の感染症対策や支援制度に取り組んできたところであります。そのうち小金井市としては、一般会計からの持ち出しが約3億1,000万円という規模となっております。中身につきましては、お手元にお配りしてございます資料を御覧いただきたいと思いますが、その中でも、本当に数例、このお時間をお借りしまして皆様方に御報告をさせていただければと考えております。まず、皆様方の大変御関心の高いPCR検査についてでございます。昨今、PCR検査、抗体検査、抗原検査、また、民間の検査体制も少しずつ充実しつつあります。また、検査手法につきましても、唾液を使った検査など、様々な検査体制の拡充に向けた取組が行われている状況であります。小金井市におきましては、小金井市、府中市、国分寺市、国立市の4市の医師会の皆様方によって、独自のPCR検査センターを開設いたしまして、5月から運営をしているところでございます。また、小金井市独自の取組といたしましては、PCR検査を受診する方というのは、陽性率の可能性が高い方々となることは御承知のとおりであります。医師の紹介などによってPCR検査に行かれる市民の皆様方にとりましては、どのような交通手段で行くのかというのは大変重要なところであります。電車やバスに乗っていくとなれば、それは感染の可能性が極めて高くなるということでもありますので、患者となる可能性の高い、感染症となる可能性の高い方々の検査をどのようにしていくのかということは従来から課題となっておりましたが、今般、自動車メーカーのホンダ自動車のホンダさんが、陰圧式の二つの空調システムを使って、運転席や助手席側に、後部座席にお座りになれる市民の方の、いわゆる飛沫感染が防止できる、特殊な構造の車を開発されて、運用をスタートしたという情報が入りましたので、私のほうから直接、ホンダ自動車にお電話をかけさせていただいて、いろいろ交渉をさせていただきました結果として、今年度いっぱい、来年3月31日まで無償で1台、車を小金井市に御提供していただきました。その車を活用し、専門的な事業者の方に運転、消毒業務を担っていただき、市の公共施設で車を常に保管し、PCR検査センターに向かう

市民の方の御自宅に迎えに行き、検査に行き、そして自宅まで送り届けるという、市の独自の事業を6月初旬からスタートしたところでございます。現在までに、PCR検査センターへの搬送用自動車の運行状況は、6月15日にスタートいたしまして、8月19日までの直近の数字では27回、27名の方々の送迎を行ったところでございます。PCR検査センターの検査実績でありますけれども、5月25日から検査を開始いたしまして、8月17日現在、小金井市分は、小金井市民の方の検査人数は、195人の検査を実施したという報告をいただいているところでございます。市内の感染者数は、先ほど申し上げましたように、この土曜日、日曜日、東京都の公表でついに90名を超えていき、100名に近づきつつあるという状況でございます。なお、この間、武蔵野中央病院、東町の病院で院内感染の報道がなされ、小金井市からもホームページ、ツイッターなどを通じて、様々な情報を御提供させていただきました。武蔵野中央病院関連の新型コロナウイルス感染症患者の発生につきましては、6月25日に感染が確認されたのを最後に、現在まで新たな感染者はなく、同病院では様々なサービスが再開され、地域の医療ニーズに応えていただける体制に戻りつつある状況であります。私も、武蔵野中央病院の院長先生とは様々な情報交換をさせていただいているところでありますが、現在、通常の病院経営に向かっていくということでございます。続きまして、関連する情報では、特別定額給付金、1人10万円の給付につきましては、かなりの申込数となっております。8月31日が申請の締切りとなっております。振込率が申請件数の98.5%、全世帯数に対しては96.4%の振込終了となっているところでございます。また、新型コロナウイルス感染症対策につきましては、皆様方からも様々な御意見、御質問があろうかと思っておりますので、後ほどの意見交換の中で、お話を伺わせていただきたいと思いますし、私からも、様々な取組内容について御報告をさせていただければと思っております。その他、市民の方々の生活を守る取組や子どもたちの対応など、いろいろなことに取り組んでいる状況であります。お手元の資料に、市報こがねいの予算書をまとめた資料があろうかと思っておりますが、A4の一枚紙です。そちらをちょっと御覧いただければと思います。左の一番上に「5」と書いてあるものです。右側に「約13億円」と書いてある資料でございます。これが（第1弾）、（第2弾）までにまとめたものでございまして、どのような取組にどのような予算を措置してきたかということをもとめたものであります。様々なことに取り組んでおりますが、振り返ってみますと、1月ぐらいから報道上で、新型コロナウイルスが猛威を振るっているというニュースがあり、2月には、大型クルーズ船、そして、それに伴い

日本国内への蔓延状態ということで入ってきまして、当時はマスク、手指消毒液などの感染防止資材の深刻な調達不足という状況でありました。小金井市では当時、総計12万枚のマスクを備蓄しておりましたので、たしか3月5日だったと思いますが、かなり早い段階で、約8万枚のマスクを市内の介護事業所、福祉事業所、保育園、学童保育、学校、医療機関といったところに提供させていただきました。その後も、小金井市も非常に厳しい状態が続きましたけれども、現在は市中でも、感染防止の資機材がやっと手に入るような状況ではありますが、3月、4月、5月は非常に深刻な状況だったなと思っておりまして、現在も、防災関係の避難所に備えるべき感染防止の資機材について、調達を鋭意進めているところでございます。また、真ん中辺には、「くらしを守る」ということでございまして、子育て世帯の方々への御支援や保育施設、学童施設への支援策などについて取り組んだところです。また、学校も2か月間近く臨時休業となりまして、初めての事態を経験いたしました。そんな中で、インターネットを活用した、いわゆるオンライン教育が大変注目をされ、また、国もそれを推進していくという大きな方向性が示されたところでありまして、小金井市もいち早く、GIGAスクール構想というものに着手をしているところでありまして、秋口には1人1台、約7,600名分のコンピュータを用意いたしまして、子どもたちに1人1台ずつの端末機を整備して、いざというときには自宅からも授業を受けられる、そういったオンライン教育、ICTを活用した新しい仕組みづくりに鋭意、教育委員会で取り組んでいるところです。

また、今年も大変な猛暑、酷暑となっておりますが、新型コロナウイルス感染拡大防止で外出を控えるような行動を取られる高齢者の方々も多く、また、エアコンを導入されていない御家庭もあるという状況がありましたので、小金井市としては6月の段階から、高齢世帯の方々に、エアコンを設置した場合には上限5万円まで助成しますよという新しい制度を導入したところでございます。また、市内事業者の方々に対しましては、融資制度の緩和、あるいは20万円の給付制度の新たな制度などを創設したところでございます。また、障害福祉施設や介護事業所などへの支援策などについても盛り込ませていただきました。そして、今般の新しい（第3弾）では、医療従事者の方々への支援、災害時の避難所における感染症対策、民間保育施設への支援、電子図書室の創設、ネット上から本を借りまして、図書館に行くことなく、限られた約7,000冊ということになりますけれども、その中からお借りしたい本を選んでいただいて、ネット上で本を借りられるという新しい制度も導入いたします。また、4月27日までとなっていた特別定額給付金の対象者につ

きましては、4月28日以降生まれた新生児の方で、来年4月1日までを対象といたしまして、新たに小金井市で誕生した新生児の方々にも、新生児特別定額給付金の新たな創設をさせていただくことが決定いたしました。また、市内事業者の方々への新たな支援などにつきましても、様々な取組を打ち出したところであります。対象者の拡大、給付金の拡大、また、プレミアム商品券で、1万円の商品券を買っていただくと3,000円のプレミアムがつく商品券を約2万部発行し、市内、地域経済の活性化や事業者の方々の御支援、また、市民の方々の支援ということで、幅広い視点からこの制度を実施していくことが決まりました。その他、時間の関係で省きますけれども、アーティスト支援など、様々な新たな支援策に全力で取り組んでまいりたいと考えているところでございます。少しお時間をいただきたいと思っております。

次に、本市の最重要課題の一つとして取り組んでまいりました、可燃ごみの処理について、お話をさせていただきます。日野市、国分寺市と本市の3市で、可燃ごみの共同処理を行うことを目的として設立をいたしました浅川清流環境組合におきましては、令和2年、今年4月1日から、日野市内での可燃ごみ処理施設の本格稼働を開始いたしました。本来であれば、見学会を5月18日から開始できる予定でありましたが、新型コロナウイルス感染防止対策のため、現在まで中止としているところであります。まだ再開のめどは立っておりませんが、いずれ小金井市民の方も見学会ができるようになる時が来ると信じておりますので、そのときには、ぜひ新しい可燃ごみ処理施設を御覧いただければと考えております。何よりもこの間、約13年間にわたりました、可燃ごみの広域支援が昨年度いっぱい終了いたしました。昨年12月に終了しました。昨年度の可燃ごみ処理につきましては、多摩川衛生組合、ふじみ衛生組合、国分寺市から御支援をいただきました。平成19年4月以降、長年にわたって御支援をいただきました、多摩地域の各団体の施設周辺にお住まいの皆様並びに全ての関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。本日お集まりの皆様方におかれましても、可燃ごみ処理施設周辺にお住まいの皆様をはじめとした日野市民の皆様及び関係者の皆様の御負担を少しでも軽減するため、さらなるごみの減量と資源化の推進に向けまして、より一層の分別の徹底に取り組んでいただきますよう、引き続きの御理解と御協力をお願い申し上げます。

続きまして、駅周辺のまちづくりについてでございます。私自身、市長に就任してから、駅周辺のまちづくりを推進してまいりました。武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発事業がいよいよ完成をいたしました。最初の構想から含めるとおよそ半世紀近くにわたっ

て取り組まれてきた、JR中央線の高架化事業とともに、小金井市の一つの大きな課題でございました。去る6月30日に、商業施設がグランドオープンいたしました。そして、716戸の住宅部分も整備をされ、現在は、その分譲が段階的に進んでいるところでございまして、既に入居も行われております。

このたびオープンいたしました新たな商業施設SOCOLA武蔵小金井クロスでは、コンビニエンスストア、飲食店、家電、衣料品店など、様々な店舗のほか、郵便局や金融機関等のサービス、医療関係事業所やクリニック、薬局などもでき、皆様の生活も大変便利になったのではないかと考えております。私といたしましても、新たなにぎわいの場が生まれたことを大変うれしく思っているところでございます。

今後は引き続き、この間、取り組んでまいりました東小金井駅北口の土地区画整理事業に取り組むとともに、新しい課題となっております武蔵小金井駅北口の新たなまちづくりにも、地元の方々と力を合わせて取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、公共施設の整備についてでございます。中間処理場の老朽化、暫定となっている缶、ペットボトルの施設の老朽化、こういった課題を解決するために二枚橋焼却場跡地と、現在も稼働しておりますが、貫井北町にある中間処理場の二つの場所に、新しい不燃系の清掃関連施設のリプレース、再整備を行う計画を既に策定しております。まずは先行する形で、二枚橋の跡地の再整備をスタートいたします。市議会での議決を踏まえまして、設計・施工、いわゆる設計と建設工事の一括発注によりまして作業を進めており、現在は実施設計に入っているところであります。来年早々には建設工事に着工する予定であります。先週の金曜日には地元の皆様方への説明会を開催したところでございます。現在は、二枚橋跡地での粗大ごみの処理などを行う施設の基本設計も終わったところでありまして、これからいよいよ実施設計に入ります。令和4年春の本格稼働を目指しまして、その作業を進めてまいりたいと思っております。可燃ごみ施設同様、不燃系施設も、12万人市民の皆様方の市民生活を守る極めて重要な施設であります。深刻な老朽化に対応するために、この二つの事業は何としても成し遂げなければいけない事業であります。まずは二枚橋の整備に取り組み、その後、中間処理場の整備という2段階の形になります。

続きまして、市長就任以来、鋭意取り組んでまいりました長年の重要課題でございます、新庁舎及び（仮称）新福祉会館建設についてでございます。新庁舎及び（仮称）新福祉会館の建設につきましては、去る6月2日に設計会社と契約を締結いたしまして、現在、実施設計の工程に入りました。現在は複合化整備方針の下、最終段階の設計工程である実施

設計に入り、今後は、令和4年度の（仮称）新福祉会館の先行竣工、そして、令和5年度の新庁舎の竣工に向けまして、コスト削減にも努めながら、着実に事業を進めてまいります。小金井市での長年の課題である庁舎の分散状態、深刻な老朽化、第二庁舎の賃借期間の長期化という財政的課題、こういった様々な課題を克服すべく、全力で取り組んでまいります。防災拠点、行政拠点、福祉の拠点となる新たな複合施設建設は、私は小金井市の最重要課題の一つと位置づけて、これからも取り組んでまいりたいと考えております。

以上、雑駁でございましたけれども、限られた時間の中でありましたので、どうかお許しをいただきたいと思いますが、主な重要課題などにつきましての私からの市政の報告を終了させていただきまして、これからは様々な皆様方のお声を頂戴したいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

3 懇 談

○司会者

では、意見交換に入らせていただきます。フリーテーマということですが、せっかく皆さんにお集まりいただいておりますので、他の方が聞いても分かるような、皆さんで共有して意見を出し合えるようなテーマを御提供いただくと幸いです。また、なるべく多くの方に御発言いただきたいと思っておりますので、要点を絞って簡潔にお話しいただき、2分から3分程度にまとめて御発言いただきたいと思っております。場合によっては、5分を超えるようなことがございますようでしたら、私のほうからお声がけさせていただきたいと思っておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。では、御意見のある方は挙手をお願いします。

○西岡市長

これから、御発言される方にはマイクを回しているんですけども、発言が終わりますと、マイクを一度消毒をすることになると思っておりますので、その関係で少し、通常よりもお時間を要する関係があることをどうか御理解いただきたいと思っております。すみません。

○市民A

貫井北町のAといいます。三つか四つあるんですけど、一つは、コロナの感染について

です。私は、外出の自粛ということでどこにも行かないので、しょうがないから、うちの近くを散歩しているんですけども、玉川上水だとか野川を散歩していますと、非常に緑の多いところで、いいところだなと思うんですね。さぞかし小金井は空気がいいんだろうなと思っているんですけども、市ベースの感染者の数を見ますと、国分寺なんかより絶えず多いんですね。私は、国分寺と同じようなスケールの町だと思っていますが、うちの息子なんかも今、都内に住んでいるんだけど、常々、小金井というのは静かで、緑が多くて、住みやすくいいよなと言っているんですよ。それが、何だ、小金井は国分寺より随分、感染者の数が多いじゃないかと言っているわけですね。毎日、発表される感染者数を見ると、小金井の場合、結構、人口に対する比率は高いんですね。12万2,000人の人口に対して、93人でありました。国分寺は同じような人口で、68人ですね。絶えず小金井のほうが多いんですよ。何でそんなに違うのか。例えば、国立なんていうのは非常に低いんですね。国立の場合ですと0.03%なんですけど、小金井は0.07%かな。国分寺が0.05%で、人口に対してね。この0.07というのは、府中だとか三鷹、武蔵野、この辺と肩を並べるぐらいの比率なんです。何でこう違うのか。国立は、今言った0.03%、日野なんかやっぱり0.03ですね。昭島も0.03ですよ。なぜこうやって違うのかも分からないんですけども、何か比較して参考になることがあれば、ぜひ取り入れてみたらどうかと思うんですけども、それが一つ。もう一つ、PCR検査はできるようになったというお話がさっきありましたが、誠に心強いお話なんですけど、私も、もしできるんだったらぜひ受けてみたいと思うんですけど、誰でもいいのかどうか。病院に行きますと、PCR検査の受け付けはしていないと書いてあるところがあるんですね。ですから、その辺はどうなのかなと思って、できるんだったら検査したい。どこに頼めばいいのか、それを知りたい。もう一つありまして、私は今までずっと我慢して、外出を控えていたんですけども、もう9月、10月も待てませんので、いろいろ外出しようと思うんですよ。ついては感じるのは、私はメガロスへ行っているんだけど、最近、家族の反対があるから行けません。駄目だと言われるから行っていないんですけど、入るときに、たしか消毒液が置いてあって、消毒するようになっているんだけど、帰るときは、どうも御苦労さまなんて言われて、さよならと言って帰ってきちゃうんですね。肝心なのは、施設の中で運動したりして、ロッカーキーを回しますね。ああいうときに、万が一でもウイルスがついていたら、それを持ち帰ることになっちゃう。どこか出るときには消毒するように心がけているんだけど、忘れちゃうときもあるんですね。だから、建物にも入るときと出るとき、

今日なんか別に消毒していませんよ。だから、それをやっぱり私は徹底すべきじゃないかなと思います。最後に、こういうところで質問するのはどうかなと思うんだけど、私は太鼓をやっているんですよね。ずっと半年以上、休みなんですけど、学校の体育館を使ってやっています。それで、学校では、貸出しは8月いっぱいにはできないんですけども、いつからそういったものを開放してくれるのか分からないものですから、それはうちの太鼓のクラブの事務局に聞けば分かるんでしょうけれども、とにかく聞いているのは、まだ駄目だよということしか回答は得ていないんです、学校からはね。

そういうふうに使われているんですけど、あれもソーシャルディスタンスを取って、間隔を取ってやっていたら、別にいいんじゃないかなと思うんですけども、いつ頃になったらそれが可能になるのか、分かれば教えてください。以上です。

○西岡市長

御質問、御意見をお寄せいただきまして、ありがとうございます。全てコロナ関連の御質問でございます。まず、小金井市の感染者状況ということでございます。人口比率で見ると、多摩地域の中では高い位置にあるということは私も承知しております。その理由ということを確認に、なかなか申し上げることは難しいんですが、全体的には、やはり23区に近いところは比較的、感染者数は高い傾向にあるなど。ただ、立川や八王子に行くと、少しその状況も変わるかもしれませんが、やはり自治体の様々な状況というものがあるかもしれません。そういったことは十分認識をしておりますが、分析や傾向などで今後のコロナ対策に生かしていける部分があれば、私もそこは大変重要な視点だなと常々感じているところでございます。小金井市は現在、93名でございますが、途中、5月下旬から6月にかけて武蔵野中央病院の院内感染がありまして、その状況の中では、院内感染に関連する陽性者の判明によって、小金井市の累計数も増えたという状況もあります。また、小金井市の特徴として、市民の平均年齢が若いんですね。実は、44.11歳というデータがありまして、これは東京都が発表しています、たしか平成30年の平均年齢です。これは多摩地域では2番目に若い水準なんですね。1位は稲城市だったと思います。

○市民A

第1位はどこですか。

○西岡市長

稲城市ですね。稲城市は比較的、人口で見ると感染者数が少ないので、あまり年齢と感染者数というのは因果関係はないのかもしれませんが、小金井市の場合は、昨今、東京都でも20代、30代、40代、50代と、若い世代の方々の感染者数が非常に増えてきました。そういう状況の中で、東京都の傾向というのも、東京のちょうど中央部にあり小金井市としても、様々な傾向と同様の傾向が示される状況にあるのかなと思っております。ただ、私といたしましては、市民の皆様方も一生懸命、感染拡大の防止に努めていただいておりますし、事業者の皆様方も一生懸命努めていただいております。そして、小金井市の医師会や歯科医師会、薬剤師会の皆様方も、懸命に感染拡大の防止に努めていただいているところでございます。これからも、感染しない、感染させないという行動、生活様式を大切にしながら、中長期化していくであろうコロナ対策には、しっかり臨んでまいりたいと思っております。また、市といたしましても、緩むことなく感染拡大の防止に、これからも市民の方々には積極的に呼びかけてまいりたいと思っております。特に、私はこの間、意識してきたことはたくさんありますけれども、医師会の皆様方との連携が非常に強くなりました。私自身も本当に連日のように、医師会の役員の方とはお話をしたり、情報交換をしたりしている状況でありますし、また、小金井市では医師会、歯科医師会、薬剤師会の皆様方が、緊急事態宣言中など特にそうでしたけれども、各団体から独自の市民の方々へのメッセージを、特に医師会は第9弾、9回ぐらいにわたってメッセージを配信してくださいましたので、こういった関係というのは、これからも大事にしてまいりたいと思っております。それから、PCR検査は誰でも行けるようにすべきではないのか、小金井市はどうなっているんだということでございました。現状は、かかりつけ医の先生の御紹介か、あるいは、かかりつけ医がいらっしゃらない場合には、いわゆる保健所に御連絡をさせていただいて、保健所の指導に基づいて対応していただいております。現状、4市で造ったPCR検査センターも、今、かなり検査を受ける方々が多い状況でございますので、今すぐに、誰でも検査を受けられるのでこちらにどうぞという場所を造ることは難しいと考えております。今は、感染の可能性の高い方々を早期に適切に対応していくということが、まず何よりも求められていると思っております。ただ一方で、働いている職場、職域、業界においては、民間の検査機関を使って、事前に全職員を対象とした検査なども今、行われるようになっております。そういった取組も必要だと思っております。私といたしましても、PCR検査体制の拡充は極めて重要だと思っております。ただ同時に、医療

提供体制の確保というのが、何といたっても重要でございます。今、重症者数も少しずつ増えているところでありますが、軽症者の方が非常に多いんですね。東京都のほうで軽症者専用宿泊施設を設置していただいておりますけれども、多摩地域には現状、1か所ということになっておりまして、東京都にも要望いたしましたけれども、各保健所、圏域に一つぐらいの、軽症者の方々が約2週間近く、人との接触なく過ごすことができる、そういう施設を、ぜひ拡充していただきたいという要望をしているところであります。続きまして、外出の際の注意点ということでございます。おっしゃるように、施設に入るときに、よく手指消毒はしますが、出るときはどうなんだという御意見もありました。常に、まず手洗いが何よりも基本ということでございます。今般、コロナの関係で手洗いやマスク、うがい、こういったことはかなり浸透しましたので、通常よりも、例年よりもインフルエンザや花粉の患者さんが非常に少ない状況ですよということをおっしゃっているお医者さんもありましたけれども、やはり、手洗い、うがい、マスクの着用など、専門機関から推奨されている取組というのは、他のウイルスにも非常に効果的なんだなということを実感した次第でございます。私も、いつもかばんの中には、こういった携帯用の消毒液を持ち歩いて出所しています。手を洗うようにしています。また、私は今まで持ち歩くことなかった体温計を常にかばんに入れて、1日3回ぐらい検温を私自身もしています。今までなかったような気づきといたしまししょうか、感染症対策が求められているところでございまして、どうか皆様方におかれても、いろいろ努力はしていただいていると思いますが、やはりこの間、コロナウイルスの感染力は怖いですから、どうかお気をつけいただきたい、様々な取組を継続していただきたいと思っております。市といたしましても、非接触型の体温計をかなり購入したり、45個、寄附していただいたりしておりまして、今日も入り口で検温をさせていただきましてけれども、消毒、検温、手指消毒といったことは徹底しながら、様々な会議、審議会といったものを行うようにしております。それから、体育館を使えるようにしていただきたいという要望でございました。現状、小金井市公立小中学校14校、ちょうど先週の木曜日、20日からだったかな、中学校がかなり早めに2学期がスタートして、来週火曜日からいよいよ小学校、第三小学校だけ、給食室の工事の関係でちょっと早かったんですが、ずれていますが、小学校8校が始まります。今現在、感染拡大がまだ継続している状況でありますので、体育館の地域開放につきましては、何か事があったとき、感染拡大につながってしまうような事象を避けるためにも、現在は体育館の使用は、子どもたちの授業、学童保育など、絞った形で活用しております。もう少し、体育館の開放につ

きましては、教育委員会も様々な御要望をいただいております、課題だと認識しておりますけれども、やはり市民の皆様、子どもたちの健康と命を守ることが最優先でございますので、体育館の開放については、現在、状況を見ておりますので、もう少しお待ちいただきたいと考えております。

○市民A

いつからというふうな見通しはないんですか。

○西岡市長

ありません。以上でございます。

○司会者

それでは、ここで、関連するコロナの関係でございましたら。

○市民B

私は東町のBと申します。市長に2点ばかり質問をさせていただきます。まず1点につきまして、先ほど申し上げられた、二枚橋の工事の着工、来年から始めるということなんですけれども、二枚橋のあそこは、リサイクルと不燃ごみですか、それを行うということで始めるらしいんですけれども、運搬経路というのはどう検討されていますか、不燃ごみ。というのは、私、心配しているのは、3・4・11の東大通りの整備がありますね。あれができると、運ぶのが非常に便利なんですよね、道路は広いし。だから、3・4・11については私、随分反対していたんですけど、二枚橋ができたら、これもやむを得ないかなと考えるようになりました。ところが、3・4・1の国分寺までなんかありますね。あれは、はけを潰して通すらしいんですけれども、どう考えても納得いかないんですよ。できる段階では、もう私はこの世の中にいないからいいんですけれども、今後のために、その点、もうちょっと検討していただきたいということが1点。第2点です。私も高齢者学級とか市民アカデミーに入ったんですけれども、高齢者学級は5種類ありますよね。生きがい広場とかいろいろ、これは結構、市でも力を入れているらしいんですけれども、市民アカデミーというのは、純然たる勉強の場に私には思えるんですよ。ちょっと言い過ぎかも分かりませんが、生きがいというのは何か、歌って、踊って、楽しんで、はい終わ

りと。この間、隣に座っている90過ぎている人が、老人だと思ってばかりにしているんじゃないかということを書いていましたけど、確かにそういう面もあると思うんですよ。ですから、歌って踊って楽しんでということよりも、むしろ純粋に勉強したいという人が結構いるんじゃないかと思うんですよ。それを純粋に、半年とか1年通しというのは今、生きがい、市民アカデミーしかないわけですよ。この間、今度、市の人が変わられて、また人数を減らされちゃったんですけども、あまり市のほうは力を入れていないように、私自身は、純粋たる勉強のほうはね。それで、楽しい生きがいのほうは結構、場所の取り方とか、優先的に入れてもらっているようにもとれるんですよ。その点について、ちょっと市長のお考えをお聞かせください。

○西岡市長

ありがとうございました。2点についてです。二枚橋に建設をする新しい清掃関連施設の状況や関連する運搬ルートと東京都の第4次優先整備行政との関係などについてです。2点目につきましては、いわゆる御高齢の方々の生きがいとしての勉強会や市民アカデミーなどの存在意義についてということだと思います。まず、二枚橋につきましては、新しい清掃関連施設、これは今、貫井北町、貫井北センターの南側にある中間処理場という施設がございます。こちらの老朽化も非常に深刻でございまして、このままずっと放置するわけにはいかないということで、私も市長就任以来、この清掃関連施設、浅川だけではなくて、不燃系の清掃関連施設の整備にも、鋭意取り組んでまいりました。約2年かけて計画をつくり上げ、そしていよいよ受託者も決まりまして、基本設計も終わりました。早ければ来年早々には建設工事の着工、そして、令和4年春には本格稼働をしているというスケジュールを描いております。今ある貫井北町の中間処理場の機能の一部を、二枚橋に移設するというイメージをお持ちいただけると、主に粗大ごみの手解体の作業と、それから、大規模災害が発生したときに、多くの災害廃棄物が出ます。東日本大震災で皆様方も御覧になったと思います。小金井市にも一時保管所が必要でございまして、そういった機能もつくります。二枚橋は長い間、約40年近く、調布、府中、小金井、3市の可燃ごみ焼却場でした。私も小さい頃、よく絵を描きに行った記憶があります。今現在は、南側の半分を調布市さんが新しいリサイクル施設として活用し、北側部分を小金井市が活用するということになっております。そして、この運搬ルートですが、詳細は申し上げませんが、野川の北側に西武線をくぐる、ちょっと短いトンネルのようなものがありますね。あそこは

基本的には通りません。

○市民B

これは通らないんですか。

○西岡市長

はい。東町5丁目内を作業する収集車以外は、一旦東八のほうに抜けていきますから、霊園通りや小金井街道などを通して、あるいは新小金井街道といったところを通して、東八道路を三鷹方面に進み、二枚橋のところで左折をして、清掃関連施設に運搬をしていくというルートでございますので、まずはそのことを申し上げます。二枚橋の清掃運搬と第4次整備路線との関連性というものは、今のところ、具体的にはありません。ただ、運搬をするに際して、3・4・11号線があったほうが二枚橋のほうに円滑に行けるのではないかと御意見は、そういった御指摘もあろうかと思えます。現状では、二枚橋の新しい清掃関連施設ができるので、3・4・11について、何か整備もぜひということについて、特別な議論をしているという経過はありません。ちなみに、第4次整備路線につきましては、市民の方や議会の皆様方から様々な御意見をいただいているところでありますが、私も自分の考えをまとめて、小池百合子東京都知事にお示しをしておりますが、現状もその考えは変わっておりません。これまでの小金井市の都市計画マスタープランを尊重する立場であるとともに、3・4・1号線という斜めの、国分寺のほうに抜けていく、この事業については見直しをするべきではないかはっきり申し上げております。また、3・4・11号線につきましては、市民の皆様方の理解が得られているという状況ではありませんので、私としては、3・4・11号線については、東京都の意見交換会の開催など、計画の周知も含めて、東京都に様々な要望や私なりの意見を付してきたところであります。それから、高齢者の生きがいについてでございます。皆様方の生きがい政策では、御指摘のような東の栗の実学級ですとか、公民館主催の御指摘の講座には毎年、必ず御講話をさせていただく機会をいただいております。貫井センターと東センターには必ず毎年1回ずつ伺わせていただいて、貴重な意見交換会を行わせていただいております。とても人気があるようでございまして、講座を募集すると、わっと申込みが来られるということでございます。御指摘の講座だけではなくて、公民館の講座、あるいは小金井市内には様々なNPO、あるいは自主サークルなど、いろいろな選択肢がありますね。私は、歌や踊りをお好

きな方もいらっしゃると思います。生きがいややりがい、毎日の生活に潤いと安らぎを感じることができるような、人とのつながりやコミュニケーションの場というのは極めて重要だと思っております。それは、精神的にも肉体的にも、健康につながると思います。私の母なんかも、今はちょっとコロナの関係で、なかなか開催ができていませんが、さくら体操の会に参りまして、さくら体操が楽しみで楽しみで、毎週のように行っています。出かけたくなる、人に会いたくなる、そういう場というのはとても大切ですし、生涯学習、社会教育の観点からも、学ぶ意欲というのは年齢には関係ないと思います。小金井市といたしましても、そういった社会教育や生涯学習の場づくり、それから、選択肢をたくさん増やしていけるような取組、また、市民の方々の自主的な取組というものについても、御支援をしていけるような自治体になりたいと思っております。私としては、今いただいた御意見はごもっともな御意見で、小金井市としてももっと頑張らなければいけないと感じた次第でございます。以上です。

○司会者

先に手が挙がった方から、御案内させていただきます。

○市民C

本町に住んでおりますCと申します。せっかく市長とお話ができるチャンスなので、いろいろお伺いしたいんですけども、絞って、まず一つ、お話を。新型コロナウイルス感染の拡大ということで、いろいろ皆さん関心があるかと思うんですけども、まず市民としてできることは、厚生労働省が行っているCOCOAという、携帯でやるアプリケーションがありますね。これは市民が参加しないと機能しないということと、もう一つは、感染者がここにリストアップしないと機能しないという二つの面があると思うんですけども、小金井市として、これをもっと積極的に、PCR検査に代わる技法として、感染したであろうと思われるような人を自分で見つけ出すという方法を、もっと普及させる。市民の90%ぐらいがこれに参加するというような活動をする御計画はございませんか。まず一つ目。

○西岡市長

まとめてどうぞ。

○市民C

もう1点は、同じCOCOAのこと、ウイルスの件なんですけれども、ウイルスというのは科学的にいろいろ検討しなければいけないし、社会科学的にもやらないといけない。総合科学でもって対応しなければいけない課題だと思うんですね。そのときに、今、市の行政のマンパワー、スキルというんでしょうか、私が思うに、市の職員に科学的素養を持った職員があまりいないのではないかと。いたらごめんなさい。いないのではないかと、そうすると施策のつくり方も変わってくるのではないかと、そういうときには外部の人をもっと積極的に使って、情報を出していただいたほうがいいのではないかなと、そういうところを期待しております。

○西岡市長

ありがとうございました。COCOAについてでございます。私も開設のときから注目しています。自治体によっては推奨したり、自治体の職員への登録を推奨している自治体もあることは承知しております。また一方で、不具合も発生したんですね。こういったいわゆる新しいICTを活用したシステムでございます。例といたしましうか、行動履歴とか、感染者の発生や情報の共有、こういった視点は大切です。特に私の知っている限りでは、外国では韓国などが非常に進んだ取組をしていますが、一方で課題もあると認識しております。現状、小金井市として、90%ぐらいの市民の方にこれに登録してくださいという計画は、今のところありません。今後のCOCOAの登録状況や国の運営方針などについて、注視をしている状況でございます。それから、もっと市のほうに専門職、スキルの向上ということでございます。総合的科学的の推進のためにということでございます。御指摘は、おっしゃることは十分理解できます。今回の新型コロナウイルスの対応で、都内でも明らかに違いを感じたのは、23区、そして多摩地域でも町田市と八王子市には、区なり市に保健所が所管として設置されています。23区は特別区、全ての区にあります。そして多摩地域では、中核市となっている八王子市や町田市には保健所の機能が、地方分権の関係によって設置できるようになっています。保健所があるということは、そこに専門的な医師や、言わば自治体職員として、医療の専門家、専門スタッフが配置されているという状況でありますし、また、業務として担える部分も、保健所を有する自治体と、小金井市のような、多摩地域は圧倒的に24市がないわけでありましてけれども、これは大き

な違いがあります。小金井市は、多摩府中保健所という府中にある保健所、ここは圏域が大きいんですね。たしか全部で六つの自治体が構成自治体なんです、人口が100万を超えています。ちょっと今、正確な数字が、105万ぐらいか110万ぐらいなんですね。これは都内では恐らく一番大きい圏域なんです。ですから、保健所の方々の逼迫度といましようか、コロナウイルス感染症を発症してから、本当に大変な思いをされているんですね。ですから、一つは、専門的な保健行政、医療行政というものを、基礎的自治体である小金井市のような人口10万人規模の自治体に、どこまで負うことができるかというのは課題だと思います。現状は保健所との連携になりますので、そして専門的医師会や三師会の皆様方との連携となります。この連携をかなり深めてきました。また、市民の皆様方同様に、ウイルスとの戦いという意味では、職員も市民の皆様方も、かなり今までなかったような知識を得るようになってきていると思いますが、まだまだ小金井市としても、おっしゃるように、頑張らなければいけません。特にこのウイルスは、誰か専門分野が頑張ればよいというわけではなくて、あらゆる部署、全ての部で感染のリスクがあるわけですから、全職員がそういう意識を持たなければいけないということは、まず肝に銘じなければいけません。それから、課題としては現状、保健所、医師会といった皆様方との連携をしっかりと取るところ、そして、市役所の中にも横断的に、こういった組織単位で、この問題に対応していくということが必要です。小金井では、新型コロナウイルスに対応するための特別な対策本部を設置いたしまして、これまでに本部部会だけで恐らく50回か60回ぐらい、相当な会議をしていますので、正確な数は今ちょっと報告できませんが、相当な回数で情報共有をしまいいりまして、その会議には医師会、三師会の方や消防の方々にも参加していただいたような場面もあります。市役所の中に外部の人を入れるべきだということがあったんですが、やはり保健所行政、保健行政というものをしっかりと捉えていく必要があると思います。もう一つの課題としては、先ほど申しあげましたように、多摩府中保健所が100万人規模ですから、私も東京都に要望したんですけれども、保健所の圏域をかなりこの間、統廃合などを進めてきた結果、一つの保健所が担う圏域が大きくなっているんですね。その昔はたしか、小金井、国分寺、府中だったかな、二つか三つぐらいで保健センター、保健所を担っていたと思いますが、今は100万人規模になっていますので、東京都はこれからそういった検討もしていただけたらと思いますけれども、保健所の圏域を、もう少しきめ細かく対応できるような圏域の設定というものも考えていただく必要があるのではないかなと思っております。以上です。そのほか、再質問があった

らどうぞ。

○市民C

再質問ということではないんですが、COCOAについて、もうちょっと市の方で検討していただければと。中国だとか韓国だと、やっている情報システムの個人情報の扱いと、COCOAは全く違う観点で、日本の国に適合されたようなものですので、もう少し市のほうでも検討していただければと思います。

○市民D

前原町のDです。よろしくお願ひします。何点かあるんですけども、コロナ関連では、PCR検査で検査場までは車で運んでもらえますよという話があつて、検査します。家に帰ってきた後に、家族と住まなければいけないのか、その後のケアというのはどういうふうを考えているのかということが1点。次は、これから冬に向けてインフルエンザ、風邪と、またコロナが増加してくる中で、市としてはどういう対策を考えているのかというのが2点目。3点目が、これから台風シーズンで、自然災害が非常に発生しやすい時期なので、そういう中でのコロナと自然災害、二つの災害が重なるわけですけども、それに対する準備はどうなっているのかというのが3点目。あと2点は、ちょっとコロナから離れるんですけども、1点は、これから10年後には3人に1人が高齢者、65歳以上になって、日本は世界一の高齢社会になります。その中で、高齢者に対して、独りで住まわれている方も増えていくと思うんですね。そういう孤立した高齢者に対する支援として、市としてはどのように考えているのかということと、最後に、ひきこもりも今、100万人を超えていて非常に多く、社会的な問題になっています。そういう、ひきこもりとか精神的な障害者に対して、今、社会福祉協議会が対応しているのかなと思うんですけども、そこに対する市の考え、もっと手厚く、こういう方向性でいくとか、どのような考えを持っているのかというのを教えてください。

○西岡市長

5点にわたる御質問をいただきました。なるべくコンパクトに御答弁できるよう努めたいと思いますが、分野によっては、ちょっと私の思いも語らせていただくかもしれませんので、御理解をお願いします。まず、PCR検査の専用搬送車両に伴って、陽性と判明さ

れた方のその後の対応です。車につきましては、先ほども申し上げましたように、小金井市では専用の搬送車両を運行しておりまして、自宅にお迎えに行き、検査を受け、そして御自宅までお送りします。その後、数日たって、陽性か、陽性ではなかったのか、結果の通知があります。陽性であった場合につきましては、恐らくいろいろなケースがあります。検査に行った段階で、これはかなり重症になっているなど判断されれば、先生はその場から病院に搬送します。そういう場合もあります。ただし、軽症者の方が多いので、検査に行ったときには、症状もそんなに重症とは見られず、御自宅に帰っても大丈夫だなど思った場合についてのみ、お話をします。その場合、言わば軽症者ということになった場合には、選択肢としては、自宅で2週間待機をしていただくか、ホテル、東京都が準備をした軽症者専用宿泊施設に移動していただくか、そこで2週間過ごしていただくか、どちらかになります。軽症者宿泊施設に入ることができれば、約2週間、そこでほとんど人と接触することなく、容体が収まるまで、経過観察をしながら過ごしていただきます。御自宅にいる場合が非常に難しく、お一人でいる場合は、本当に人と接触しないような生活をしていただきます。なお、この場合は、保健所からの様々な御指導がかかってまいります。ここで非常に難しいのは、家族の方と一緒に過ごされる場合です。例えば御高齢者の方がいらっしゃるれば当然、陽性者からお父様やお母様、高齢者の方に感染してしまえば、それは重症、中症のリスクがとても高くなりますので、その場合は、同じ家族でも、また、住んでいる建物の構造にもよりますけれども、基本的には、ほぼ隔離された状況の中で生活をしてくださいという指導が入ります。一方、小さなお子様がいらっしゃる場合や小さなお子様が感染してしまった場合も、様々な状況が考えられますけれども、場合によっては、陽性の方が自宅に残って、そうではない方は自宅を2週間近く離れて、実家や、他の家やホテルといったところで過ごしてもらおうということもありますが、これは家族構成や建物の構成や業種、その方のお仕事の状況によって、かなり千差万別なので……。

○市民D

これは、外に泊まるのは、自分で選択できるんですか。

○西岡市長

できますよ。

○市民D

そこに移動するのは、自分で行くんですか。

○西岡市長

家族の場合は、ただ、濃厚接種者になってしまっているケースが非常に高いので、家族の方も、基本的にはPCR検査を受けてもらうこととなりますね、現状。

それで、家族の方が陽性となれば、御家族一緒にそのまま残っていただくということもあるし、陰性だった場合は、その段階から、陽性となってしまう家族の方との接触はできなくなりますので、そこから先は選択肢が様々あるということです。

○市民D

宿泊施設に行くのは、公共交通機関を使って自分で行くという……。

○西岡市長

軽症者専用宿泊施設にも、実は患者専用搬送車両が準備されています。これは東京都のほうで確保しておりまして、ホテルに行くときには、その車が迎えに来てくれます。今はそうっております。軽症者専用宿泊施設を出るときには、もう陽性ではないという状況で、お医者さんの診察も受けて判断しますから、電車やバスで帰ってもらう、こうなっております。家族構成によって、本当に様々なケースが想定されます。これは非常に皆さん、とても悩まれるというか、心配されるころだと思えます。私はいろいろなケースを聞いています。2点目です。重要な指摘でございまして、これから、インフルエンザというのは大体、10月中旬からワクチンの接種が始まりますね。私も毎年必ず、初日か2日目、3日目ぐらいには自分のかかりつけ医に行って、インフルエンザの予防接種を必ず受けるようにしていますが、いよいよそういう時期が近づいてきてしまっている。今回のコロナについては、日本では2月から蔓延期に入っていますから、いわゆるインフルエンザの季節、10、11、12、1、2のあたりを経験していません。ですから、日本において、コロナの感染状況がどういう影響を及ぼすのか、また、こういう状況の中で、インフルエンザなどがどのような蔓延状態を迎えるのかというのは、医師会の方々もとても注目しているところだと思います。私どもとしては、今まさに、インフルエンザの予防接種を迎える中で、コロナ対策をどのように構築して、考えていったらいいのかというところは、医

師会の先生方からの御意見もいただきながら対応していきたいと思っています。前と同じように、自由に病院に行って、注射を打ってもらって、帰ってもらうということが本当にできるのかどうなのか、難しいと思っています。しかも、それは感染拡大の状況にもよりけりかなと思っていますので、御指摘の点は本当に大切な視点でして、まさに今、インフルエンザ対策、蔓延期に向けて、日本が各地域でどういう対策を取っていくのかというのは、今後の大きな課題だと位置づけております。今日の段階では、具体策について何か申し上げることはないんですが、今までと同じような接種というのはなかなか難しいのではないかと。つまり、風邪の症状があるかどうか分からないままに、今までも、ちゃんとインフルエンザの予防接種をするときは、問診とって、いろいろなアンケートに答えて、先生に直接打ってもらいますよね。でも、それが本当にできるのかどうなのか、これは大きな課題だと思っていますが、一方で、接種をしたいという方も当然、大勢いらっしゃるわけですが、それをどうさばけるというか、接種しきれぬのか。接種の在り方、接種の環境といったことについては、御指摘のように、大きな課題と捉えています。続きまして、自然災害とコロナです。小金井市では先般、感染症対策を踏まえた新しい災害マニュアル、避難所マニュアルというものを、第1弾をやっと作り上げたところです。そして、予算書にも入っておりますけれども、小金井市立小中学校14校、あるいは自主避難所などで活用する、感染予防の資機材の備蓄に努めているところです。まだ完了ではありませんで、これから段階的に増やしていきたいと思っております。これまでと大きく違うのは、避難所に来る方は当然、検温をその場でしなければいけませんし、陽性者であっても、自宅にいたら命に関わるという場合であれば、避難所で陽性の患者も受け入れなければいけない選択肢も出てくる可能性があります。そういったときには必ずゾーニングというものをしなければいけませんので、そういった考え方についてもある程度まとめたものでございまして、市役所のホームページに、公開されていたかな、もし公開されていなければ近々公開しますが、新しい小金井市の災害時の感染症対策下における避難所運営の在り方などについての計画をまとめましたので、ぜひそちらも御覧いただきたいと思っております。御指摘の点は、おっしゃるとおりでありまして、いつ何どき、今年の台風19号のような台風が来てもおかしくありません。また、コロナ、台風、それに併せて今度は大地震、複合の複合という可能性も決して否定できませんので、私たちとしては常にそういう備えの意識というものを持たなければいけませんし、市民の皆様方にも、防災意識は常に保持していただきたいと思っております。8月12日から16日まで、新しい防災マップを全戸配付させていた

できました。皆様方のお宅にも届いたと思います。こちらもぜひ御覧ください。主に台風
のときの警戒区域が、もうちょっと細かくなったんですね。小金井の場合は、貫井南町、
東町の国分寺崖線のところのエリアが約10か所、土砂災害の特別警戒区域に新しく指定
されました。そういった関係で、新しい防災マップを策定して全戸配付いたしましたので、
ぜひ御覧ください。なお、11月1日には本来、総合防災訓練を予定しておりましたけれ
ども、まだ市議会でははっきりと発表しておりませんが、今までどおりの総合防災訓練は、
この感染拡大の状況で難しいと判断いたしましたので、第一中学校で開催する予定の関係
機関や一般の市民の方が参加する訓練は中止と決定いたしました。ただし、災害防災意識
というのは極めて重要なので、二つの小学校で避難所運営訓練、市の職員、それから、そ
の地域の、ちょっと参加者は少数になってしまうかもしれませんが、町会・自治会、自主
防災組織の方々にお集まりいただいて、感染対策下における避難所設営をやります。また、
小金井市にある公立小中学校14校が避難所になるわけですが、各学校に5名の市の職員
が避難所要員となって、70名が指定されております。その70名を対象に、また訓練を
実施したいと思っております、やや内部的な訓練になるかもしれませんが、感染症対策
に重きを置いた訓練を今、準備しているところでございます。災害対策は以上でございま
す。10年後の高齢者の増加に向けて、小金井市はどういう備えをしていくのかというこ
とでございます。ただ、両面をやらうと思っております、一つは、元気な方々も当然増
えますから、そういった方々の活躍できる場、先ほどのお話もありましたけれども、生き
がいややりがいを持って、ついに住みかとして小金井市がよりよい町であるための政策に
まず取り組んでいく必要があると思っております。

もう一方で、何らかの形で、認知症や、様々な病や体の不調など、そういったことで感
じていかれる方もいらっしゃると思いますが、医療と介護、福祉の連携というものがとて
も大切になってくると常々考えております。御指摘のように、独居、独り暮らしの方が増
えるということに関しましては、そういった方々の生活をサポートする体制をしっかり構
築していくということ、明らかに大事になるのは在宅医療ですね。在宅介護、在宅医療、
この分野が飛躍的に増えていく。施設面での全てを市内に準備するというのはなかなか難
しいです。特別養護老人ホームについては一昨年、小金井市内では3か所目、18年ぶり
の特養が開業できましたけれども、今、4園目の開業の準備を進めています。本町住宅、
J K K 東京都住宅供給公社の建物が本町にございますが、かなり老朽化が深刻でございま
して、北側の半分を建て替えることとなります。その関係で一定の土地が創出されますの

で、その土地を定期借地によってJ K Kが事業者を募集する。何らかの形で地域貢献ができる事業を展開したいという御相談がありまして、J K Kと協議をして、私どもとしては、子育て支援などにも目を向けていただいた、特別養護老人ホームなど高齢者福祉施設をぜひ誘致したい、事業者をぜひ公募していただきたいというところで申し出たところ、J K Kさんも小金井市の要望を大変重たく受け止めてくださいます、今、高齢者福祉を担っていただける事業者の募集の準備が進んでおります。これが実現いたしますと、四つ目の特別養護老人ホーム、プラス何らかの福祉サービスということになります。その福祉サービスはどんなものを展開するのかというところの判断、プロポーザルだと思いますけれども、これはJ K Kさんの判断で事業者が決まるわけですが、小金井市にとっては、新たな四つ目の高齢福祉の拠点が今、準備されつつあるということは、非常に良かったと思っております。しかし、施設面でどうしても限界があります。重要なことは、やはり在宅介護、在宅医療の体制をしっかりとつくるといことでありまして、地域包括ケアシステムと言われておりますけれども、この地域包括ケアシステムの機能をしっかりと構築するということが今、小金井市には何よりも求められておりまして、そのことが、D様への一つの御答弁になるかなと思っております。5点目です。今のひきこもりの問題につきましては、社会的に大きな課題でございます。私としては、孤立が一番怖いんですね。御自身も、また、一緒に住まわれている家族の人も、孤立してしまうことが一番怖いんです。そうならないようにするためにはどうしたらいいのか、ここが一番重要だと思います。もちろん、そこからさらに何らかの仕事に挑戦をしたり、医療機関とつながったり、その人に見合った形で、適切なつながりというものが芽生えるように、社会全体で支えていくことが大事だなと思っております。孤立を生まない、孤立状態にならない、そのためのサポート体制というのがとても大切だと思っております。今、国のほうは、なるべく地域に入って、例えば病院の施設などにいらっしゃる方も、中にいらっしゃいます。でも、地域に帰れる方は地域に戻っていただいて、社会とのつながりを持つようにという取組がありますが、お一人お一人、本当に様々な事情や様々な状態がありますから、その人に見合った適切な対応が求められますが、孤立しない取組をどうしたら構築できるかということが大きな課題だと思っております。長くなりましたが、以上です。

○司会者

先に、こちらの女性の方……。

○市民E

梶野町から参りましたEと申します。いつもお世話になります。地域によって民生委員の方がいない町会がありまして、いろいろな意味で、今回はコロナのことですから、うわさがうわさを呼ぶようになるので、ニュースみたいなものが老人たちの間で流れてしまうときに、きちんとした形でお話を伺いたいと思うんですね。例えば民生委員の方が、本当にお世話を焼くお年寄りなんかが出て、あのおばあちゃんに聞けば何でも分かるのよというような時代ではなく、今は、もちろんプライバシーのこともあるんですけども、きちんとした形で民生委員の方というか、そういう責任のある方が町内にいてくださると、このようなことがうわさになっているけれども本当なんだろうというような、きちんとした形でお話を伺いたいと思うことが度々あります。要するに、あのね、それでねというような単なるうわさ話が広がっていくような、もちろん今はコロナのことで、どここの病院が、あそこが発祥の地なのよ、何十人になってしまったのよというのが、それが本当なのかどうかよく分からない場合に、きちんとした形で知りたいということと、それから、いつも公平な立場で、お年寄りの家では、今、独り暮らしのお年寄りが多いので、私自身もそうなんですけれども、何かきちんとした形でお電話なり、訪問してくださる方がいたら、こういうことをお話ししたいのよというようなことを、きちんと正しく伝え、それから、正しく伝わりたいと思います。今はもちろん、コロナで身動きできない状態ですけれども、そういうときにも、誰かきちんとした頼りになる人が欲しいな。もちろん自分の子どもがいればあれですけれども、はっきりした正しいことを伝えてほしいなということが一つ、民生委員の方に全部その責任を負わせるということではなくても、あの方に聞けば、例えば町内の情勢が分かる、市の様子が分かるというようなことが、きちんと伝わる方法というのが欲しいなと思います。お年寄りの独り暮らしの場合は、いろいろな意味で不安ですし、電話で友達に聞いて、また違ったニュースが耳に入ると、何が本当かというようなことも心配になります。それが一つ。それから、先ほど御意見の中に、高齢者学級の中でも、歌ったり踊ったりというのじゃなくて、きちんとした政治的な話とかというのは、私、実はシルバー大学のお仕事を手伝ったことがあるんですけども、市のシルバー大学とか雑学大学というものと、高齢者が集まる中で、きちんとした政治の話、世界情勢の話というのが伝わるのではないかなと、ちょっと参考までに申し上げたいと思います。よろしく願いいたします。

○西岡市長

とても大切なお話をいただきました。ありがとうございます。正しい、そして積極的な幅広い情報発信というのはとても大切だと思います。私も、コロナに限ったわけではありませんけれども、常に行政というのは、市民の皆様方に情報発信をしていかなければいけないと心がけております。ただ、どうしてもタイムリーな情報が、市報こがねいは月に2回の発行ということですね。緊急に発行、出したいものはホームページやツイッター、あるいは、広報掲示板も、その日のうちにとはなかなかいかないので、どうしても緊急性の高いものほど、インターネット、スマホなど、見られない方にとっては情報が遅れてしまうんですね。そこが大きな課題です。常々私も市の職員の皆さんには、情報発信ということをもみんなで心がけようと呼びかけています。正しい情報をですね。今般、コロナのツイッターというのものも、全てのアカウントを取得していくような準備もしているんですが、デジタルディバイドといいたいでしょうか、ネット環境にある人とない人もいますし、その人の生活の様式によって、情報の取り方が様々あると思います。まず今、民生委員の方が少ない。民生委員の方が空白にならないように、民生委員の方と市民の方、対象としている方々がもっと密接に情報交換できるように、それはおっしゃるとおりだと思っております。今、鋭意、民生委員の空白地域をなくすように取組を進めているところでありますが、課題となっています。なかなか受けてくださる方が見つからないという現状ですので、この辺は昔、今も消防団員の方の欠員の地域もありますし、町会・自治会も役員の方が高齢化してしまっていて、何年もやらなければいけない、新しく引き受けてくださる方がいらっしゃらない、こういう悩みを持っている方もいらっしゃいます。民生委員も、あるいは保護司もそうですけれども、社会にとって、地域にとって、大変大きな重責を担ってきた。そういった役割を担っている方々が、継続して人が入れ替わっていけない、どうしても成り手不足という壁にぶち当たってしまっているという現状が小金井市にもあります。今、各分野で担当職員ともども、その確保策に向けて、いろいろ努力しているところです。本当に民生委員の皆様方の存在は非常に重要だと思っております。また、知りたい情報でどうしても分からない、こういうときは迷わず、まずは一回、市役所にも電話をしてみてください。例えば新型コロナウイルスの関係であれば、コールセンター、電話センターも開設しました。その場で答えられるものはその場でお答えしますが、分からないものは担当の部署に回します。例えば今、小金井市の感染者はどうなっていますか、先ほどあったような、

院内感染をしている病院があるようですけれども、どこの病院で今、どうなっていますかという質問に対しては、担当職員が、公表できる範囲でしっかりお答えをしますので、分からないことがあれば、まず、市の行政のことであれば、遠慮なく小金井市に電話をおかけください。窓口としては、広報秘書課でも構いませんし、よろしく願いいたします。

○市民E

小金井の場合は、幸せなことに、児童虐待とかそういうことはあまりないので、あれなんですけど、例えば、いち早くとか、何か事があったときにすぐ知らせるようにというけれども、そういう先にしてよいのは、今お話ししました民生委員の方に、こういう泣き声がすごいんだけどというようなことを、すぐ直接市へというのは、なかなか年を取ってくると、市のどこへお電話していいとかよく分からないけど、地域の中にそういう責任のある方がいたら、こういうところがこうなのよというようなこともできるのかなど。

もちろん市役所が大事なことはよく分かりますし、根本的には市役所にとということなんですけど、さて何課なのかというのがちょっと不安なこともあるので、そういうときに。

○西岡市長

分かりました。身近なところに、日頃からコミュニケーションを取っている人で、そういう困ったときに相談できる人、これは大事です。本当におっしゃるとおりです。そういう人がいると心強いですよ。ですから、民生委員の方々にも頑張っていただきたいと思えますし、中には、いろいろな資格を持っている人や、地域には町会・自治会の役員の方、あるいは老人クラブの幹部の方もいらっしゃる。社会福祉協議会の方もいらっしゃる。いろいろな方がいらっしゃいます。案件によって相談でも、何か困ったときにはこの人というのがいると本当に心強いと思えますので、民生委員の確保についても一生懸命努力してまいりたいと思っています。それでも何か本当に困ったときは、御自身で部署が分からないのは当然です。ですから、市役所の代表電話なり、質問していただければ適切なところにつながりますので、よろしく願いいたします。また、高齢者学級については、シルバー大学や雑学大学の御紹介をさせていただいて、ありがとうございました。私もその存在は承知しております。いろいろな選択肢がありますよね。また最近では、大学もいろいろな講座を開設していますね。小金井は大学も多いので、そういった様々な選択肢、これもまた情報なんですよ。こういう選択肢がありますよ、こういう講座がありますよということ

を幅広く伝えていけるように努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。続いて、どうぞ。

○市民F

貫井南町三丁目のFと申します。3点ばかりあるんですけど、まず1点は、滄浪泉園なんですけど、滄浪泉園につながっている土地のところは公園になっているんですけど、皆さんほとんど知らないで、子どもたちとか親子で、お休みがあるときに皆さん散歩かたがた歩いてきているのに、あそこは5時になると鍵がかかっちゃうんですよ。そんな公園ありますか。もう一つ、三楽の森もそうなんですけれども、公園で鍵がかかってしまって、植木の手入れというのを1年に二、三回やって、物すごくきれいなんですよね。それで、滄浪泉園とつなぐことはできないのか。それから、東京都の補助で造った、そこにある建物の一つ、メダカの餌をやっているだけで大学のいろいろな研究者が来ますなんて、来たところを見たことがないし、あそこで何をしているのか。何かの催しをやっても、1人か2人しか来ていないので、物すごい税金の無駄遣いだと思うんです。それからもう一つ、C o C oバスの件なんですけど、私も地域で最後の奉仕だと思って、今回、C o C oバスの委員に応募して、委員に出たんですけど、まるっきり話が違って、路線を市民のための路線に、参考にしてつくりますと言ったのが、業者からある程度の資料ができてしまって、本当に役所の中の棚にしまっておくような資料で、何の参考にもならなくてがっかりして、御近所のお年寄りとか、うちのところはC o C oバスが通っていないので、最後の奉公で皆さんの意見を言ってくると張り切って行ったんですけど、全然駄目でした。それで、返ってきた言葉も、ここで言えないような職員の返答で、私も、地域の人には皆さんお話ししたんですけど、びっくりしました。それと、小金井の中に、総合病院は桜町つきりないのに、どうして桜町の中にC o C oバスが入らないんですかというのを、C o C oバスが走る前から私はお願いしているんですけど、入れてくれないのは何か理由があるんですか。それから、三楽の森のところの子どもたちのグラウンドになっている隣の空き地の木のところが、ちょっと人様の話だと、木を伐採してグラウンドを大きくすると言っているといった話が出ていますんですけど、ただグラウンドとか何とか、みんな多くするだけで、小金井市はそれに対して整備がなっていないんですよ。公園のところには水道はないし、トイレはないし、そういう公園が数々あって、この暑さのときに、皆さん散歩してつくづく感じたとおっしゃいました。それから、行政の中のことなんですけど、センターを

利用しておりますが、センターの中の利用者の名簿というのはできているのか、できていないのか、物すごく不思議に思うんですけども、私、申し訳ないんですけど、府中市の利用させていただいているんですが、1年に1回、必ず7枚、書類を出させられるんです。その中に、ちゃんと利用者と会員さんの名簿を書いて出すんですけども、今、貫井センターは、福祉会館がなくなって、センターを借りて行っているんですけど、そんなこと一回もないですよ。あと、センター祭りも、皆さん地域の人に声をかけて、利用者に声をかけて、利用者でもって輪をつくってセンター祭りをやっているんですが、小金井市はそれが全然ないんです。何かお役目があればいいという感じで、だから、市民になじみがなくて、もうちょっと考えたほうがいいと思うんです。それで、利用者の名簿ができていないのかどうか。私はできていないと思います。ちゃんと府中市では、他市を申し上げてなんですけど、7枚書くんですよ、それを毎年。それで、利用者一覧表というのをちゃんとセンターの前で、だから、市民が何か習いに行きたい、何かに来たいという、それを見ればすぐ分かるんです。でも、小金井市にはないです。だから、職員さんは何の仕事をしているのかなと思います。それで、入っていったときも、利用者のところに、今日は、黒板には書いてありますよ。でも、入って帰るときにはちゃんと、ありがとうございますと帰るから、このグループは帰ったんだなというのをチェックできているんですけど、小金井は、誰が入ってこようが、何が入ってこようが、全然チェックも何もないし、だから、皆さんに、私はセンターを利用して、皆さんの指導をしていますけど、そのときには必ず水筒を持っていて、避難とか何かあったときにはみんなで階段を利用しようねと、それを合い言葉に使っているんですけども、府中市はちゃんとそういう突発的なことが起きたときにはエレベーターは絶対に使わないよというのを必ず皆さんに伝えているんですよ。そういうことが全然できていなんですけれども、その点はどうなっているかということと、それから、貫井センターの、市長さんも御存じだと思うんですけど、あのエレベーター、乗ったことありますか。物すごい高温なんですよね。何であんなところに造ったのかと思うんですが、ただ造ればいいというのじゃなくて、熱いからやけどに注意してくださいと貼り紙がしてあるんです。すごく変なところだと思います。だけど、そういうところも行政の中で徹底して、事務的なところはしっかりやってほしい。それから、集会所の件なんですけど、集会所が八つ、九つあるのは小金井市だけだと思うんです。集会所はもっと児童館なり、センターなり、格上げして利用できたらいいと思うんです。私は近くに三楽集会所とあるんですけども、物すごくいいところなんですよ、自然で。でも、

ほとんど閉まっていて、利用者はほとんどない。老人会ぐらいで使っているだけで、夜は99%閉まっています。それでも管理人二、三人、手当は皆さんの国民年金以上出しているんで、小金井は裕福だなと言っています。あともう一つ、老人会の中大の講堂を借りてやるときに、あれはシルバーですか。シルバーに丸投げしてやっている事業も、本当に考え物だと思うんです。全然関係のない他市の人が記念品をもらいに来て、小金井はすごい裕福なのねと言って、全然関係ない人に皆、記念品を配ったんですよ、お土産を。それでお土産も、やっぱり小金井の中には、お店を言っただけで申し訳ないんですけど、製造業であるのは、あそこの和菓子屋さん、亀屋さんだけなんですよ、小金井の製造業というのは。そうしたら、そういう小金井の製造業を使ったらどうですか。参考までに申し上げますけれども、府中市はちゃんとセンターを使って、地域の老人会をやって、シャトレゼが中にありますから、シャトレゼの紅白のおまんじゅう2個です。小金井市は、どこかの有名メーカーで1箱配ったんですよ。だから、すごい予算があるのかなと思って。でも、税金を使うところは全然違うので、集会所は早急に格上げして、なくしてほしい。それで、集会所の担当がマロンホールなので、こっちからマロンホールまで行くのにはとても大変なんです。利用者のあれをやるには今、ファクスだってあるんだから、ファクスを送って利用のメモを出せばいいんじゃないですか。ただ単に大きな用紙に書いて、一々出しているけれども、あれは本当に紙の無駄だと思います。年間にしてみれば物すごいんです。以上です。

○西岡市長

残り5分という状況で、10個ぐらいの御要望をいただきましたので、全部お答えすると時間を越えてしまいますので、案件によっては、担当を通じて質問者の方に御説明なりさせていただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。まず、滄浪泉園とつながっている公園、それから、三楽公園ともつながっている公園の鍵の施錠の関係でございます。こちらについては、施錠する以上は何らかの理由があって、長い間、そのような運営、運行を、ずっと地元の方々とも相談しながら対応してきたんだと思いますが、なぜこういう状況になっているのかということにつきましては、環境政策課を通じてなり、何らかの形で御返答させていただきたいと思います。それから、環境楽習館のことをおっしゃっているんだと思うんですね。何の施設ですかというので、税金の無駄だとおっしゃっていた、メダカの餌、これは小金井警察署の南側の施設のことをおっしゃっているんで

しょうか。

※環境政策課からの回答

「滄浪泉園」の隣の「はけうえ広場」につきましては、敷地内に公園灯がなく、接道する道路からも死角となっていることから防犯上の理由により、午後5時以降は閉園とさせていただきます。また、「三楽の森公共緑地」も「はけうえ広場」と同理由により、午後4時以降は閉園とさせていただきます。「はけうえ広場」をつなげることにつきましては、「滄浪泉園」は市が都市計画決定し、特別緑地保全地区に指定しており、整備について厳しく制限されていることから、難しい状況でございます。

○市民F

違います。あらゆるセンター、貫井センターとかいう、センターのあれですね。すみません。違います。何ですか。

○西岡市長

メダカの餌とかですね。

○市民F

あれは、東京都の補助金で造った、滄浪泉園のところにある一軒家です。

○西岡市長

はい。その環境楽習館がどのように使われているのかが知りたい、分からない、無駄だという御指摘をいただきました。こちらにつきましては、これも環境政策課のほうから詳細をお伝えしますが、今から1年か2年ほど前だったんですが、幾つかの様々な課題があったものですから、こういった課題の整理をして、利用しやすいように、また、運営費、コスト面からの検証も行いまして、ルールを大分見直しました。あそこは自然再生エネルギーを使うエクセルギーハウスということで、東京都からの補助金10分の10だったと思います。全額、東京都の補助によって造られた施設でありまして、利用の在り方について、一定の制限があります。通常の集会施設とはちょっと違った目的、それから、夏場が非常に暑くなってしまいまして利用ができないなどの一つの制限がありましたので、こう

いったものを可能な限り課題を解決するために、運用方法を見直しましてから展開しているところをごさいますて、全く利用されていないということはないんですが、8月の猛暑の時期などについては、冷暖房を入れられないものですから、エアコンを設置できないものですから、一定の制限があったということをごさいます。しかし、今は、再開に向けて努力をしているというところをごさいます。あと残り3分ぐらいになっちゃったんですけど。

※環境政策課より回答

環境楽習館では地域から地球温暖化を防止することを目的として、家庭でできる環境に配慮した取り組みの紹介や、研修室の貸出、研修室を活用した市民向け環境学習講座等を行っています。令和元年度に開催した市主催の2回の環境講座では、両講座ともに定員を超えるお申込みをいただいております、ご好評いただいているものと考えております。一方で、研修室が利用されていない時間帯が多いという課題もごさいます。そのため、小金井市環境配慮住宅型研修施設条例の一部改正による利便性の向上、運営支援委託事業者による民間力の活用等、市民の皆さまにご利用いただくための取り組みを行ないました。今後も、魅力ある講座の企画、また、施設の活用方法について周知するなど、多くの市民の皆さまにご利用いただけるよう努めてまいります。

○市民F

いいです。

○西岡市長

ほかに御質問ありますか。もしあれば、その御質問も今のうちに受けたいと思うんですが、大丈夫でしょうか。では最後に、短いですが。それから、C o C oバスの関係です。こちらについては、C o C oバスの路線のルートの在り方、審議会の運営の在り方、それから、桜町病院になぜC o C oバスが入らないのかということについての理由です。この辺につきましても、C o C oバスの審議会のメンバーに就任していただいているということですので、交通対策課のほうから、市民としての座談会を通じて質問者からこのような御質問をいただいたということで、私のほうから御説明をさせていただいて、交通対策課のほうからお答えをさせていただきたいと思います。一応、私のほうで答弁させていただきたいのは、桜町病院についてです。桜町病院については、従来から利用する方が、

桜町病院のもっと近くにC o C oバスのバス停を設置していただきたいという要望はありました。現状は緑中央通りという、かなり遠いところにありますが、かなり距離があるということでございます。何らかの形で導入できないかということで、担当も警察署というところを詰めました。周辺の道路の幅員の関係、あるいは交通規制の関係で、現状では、桜町病院の極めて近くにバス停を設置することは困難ということになりました。私もその理由を、詳細を全部聞きましたけれども、私としてもそれは理解ができるものでありました。それから、小金井市の公園にはトイレや水道水がないので、もっと公園の整備をしていただきたいということと、三楽公園に隣接している木の伐採が始まるけれども、うわさがあるけれども、どういふことなんだということ。小金井市の公立、市立公園の全てにトイレや水道水がついているわけではありません。市民の方々に大変申し訳ないと思いますが、大きさや形状、当時の財政状況、費用対効果、利用している人数、そういったところから総合的に判断をして、全部の公園にトイレや水道水をつけているわけではありません。特に規模の小さなものであれば、これはなかなか財政負担の関係からも難しいなと思っています。しかし、そんな中でも、貫井南町のけやき公園につきましては、トイレを設置いたしました。

また、武蔵小金井駅北口nonowaにも新しい商業施設ができましたが、ちょうど大規模商業施設を超えた、むさこぷらっと公園という新しい公園ができました。子どもたちがたくさん遊ぶことが予想されるので、こちらには水飲み場を設置して、これは開発行為に伴って造っていただく公園ですが、利用頻度が高いと思われるところについては、事業者の方々にも、市として水道水などの設置も要望しています。しかし、トイレにつきましては、相当な経費がかかりますので、総合的な判断です。これからもそういった設置の努力はしたいと思っています。三楽公園の近くの木の伐採、これほどこのことをおっしゃっているのか、すみません、さっぱり分からなかったんですが……。

※交通対策課からの回答

その節は、本市地域公共交通会議の公募委員として、御尽力いただき誠にありがとうございました。ご指摘のとおり、C o C oバス再編事業につきましては、市民及び地域公共交通会議等の意見を踏まえながら検討を進めております。また、地域公共交通会議において委員の皆様にご協議いただくためには、まずは市において内容を検討・精査した上で、事務局（案）として会議に提示する必要があると考え、各会議においては、民間事業者に

よる専門的・技術的支援の下、作成した資料を提示し、その内容を踏まえて委員の皆様からご意見等をいただいているところです。会議にてご発言いただいたご意見を含め、この間に市へ寄せられた地域の皆様からの様々なご意見等につきましても参考とさせていただきながら、検討を進めてまいりたいと考えておりますので、何卒ご理解くださいますよう、お願い申し上げます。

○市民F

グラウンドにつながっているところです。

○西岡市長

北側につながっているところですか。

○市民F

入ってすぐのところ、グラウンドにつながっているところです。

○西岡市長

グラウンドの北側ですか。マンションとの間ですか。

○市民F

そうです。

○西岡市長

あちらの土地につきましては、市の区域でありました。公共用地となっております、その木の伐採などについて、どのような今、計画が、あそこはかなりたくさんの木が生えておりまして、恐らく地域の方々からは、あまり形状は変えないような、あそこは緑地保全の関係で、国分寺崖線との関係で、緑地、正式名称はちょっと正確ではないかもしれませんが、小金井市で唯一、網がかかっている場所です。それは、緑地を保全するという特別な指定されている区域だと理解しております。その関係もありまして、何らかの管理をする計画があるのかもしれませんが、どういう計画なのかについては、こちらは環境政策

課のほうからお答えをさせていただきます。後ほど、質問者の方の住所と御連絡先を担当のほうに教えていただければと思います。詳細についてお伝えします。それから、集会施設につきましては、今、いろいろと御要望をいただきました。もっと位置づけを上回る、もっと重要度を高めるべきではないかということなどについては、御意見として承りました。また、貫井センターのエレベーターが高温であるということでもあります。私は、あそこは2階までなので、エレベーターを使ったことがないので、階段で行くものですから、自分で体感したことは残念ながらありませんが、今度行ったときには、実際に乗ってみたいなと思います。それから、記念品を渡したというのは、敬老会のことをおっしゃっているんですね。

※環境政策課より回答

三楽の森に隣接する三楽公園の北側の緑地について、樹木を伐採し公園のグラウンドを広げるといった計画はございません。こちらの緑地は、近隣住民や近隣小学校の児童達が環境学習の場等として活用できるよう、自治会、敬老会、子ども会など、様々な方々と協議を進めており、いただいた意見を参考に、必要な整備を行うことで、魅力の向上を図る計画でございます。また、市管理の公園・緑地の整備につきましては、平成31年3月に市民参加で策定した「小金井市公園等整備基本方針」で考え方を整理しており、これに基づき適正な整備に努めております。なお、水道の設置は300㎡以上の公園を基本に、半径500m以内に他に水道がある公園が無い場合に設置を検討することとし、トイレの設置は1,000㎡以上の公園を基本に、半径500m以内に他にトイレがある公園が無い場合に設置を検討することと定めております。

○市民F

敬老会。

○西岡市長

敬老会については、私も聞いておまして、中央大学附属の大講堂で、今年はコロナの関係で開催は中止になりましたが、この間、敬老会を行わせていただきまして、かなり有名な歌手の方が来られたりすると、無償、無料であるということからも、市民ではない方が何人か来ているのではないかと御指摘はあり、事業を担っているシルバー人材センターの方々がいろいろな対策を取って、努力をしているところでございます。今後とも、

市の事業ですから、小金井市民の方々に参加していただけるように、創意工夫をしていた
だきたいと考えているところでございます。たくさん案件がありまして、時間の関係で
全部御答弁できなかつたのは申し訳ないんですが、担当を通じてからも、今、御質問で十
分、詳細にお答えできなかつたところについては、担当からお答えをさせていただきたい
と思います。では、時間を過ぎてしまいまして、すみません。

○市民G

すみません、質問じゃなくて、提案なんですけれども、私の場合はまたコロナです。

市内で発生するというのもあるかもしれない。外から流入というんですか、入ってくる
というのは結構あると聞いているものですから、確かに、新宿の歌舞伎町で飲んで帰って
きた連中が小金井に降りたら、それは持っているかもしれませぬね。それを前提にして言
っているんですけれども、夜、電車が停車したときに、みんながぞろぞろ降りてきます。
そのときに、必ず手洗いとうがいを励行しましょうということを、アナウンスでみんなに
流すということを励行したらいかかと思ひまして、全市を挙げて、とにかくコロナの撲
滅に努めているという印象を与えるために、何かそういうことを考えられないだろうか
と思ひつきます。

○西岡市長

御意見として承ります。鉄道事業者の御協力も必要な取組になるかなと思ひます。JR
さんのほうも、車内ではいろいろなアナウンスを今していますよね。電車にしばらく乗ら
れていないようにお見受けしましたけれども、中央線に乗ると、かなりアナウンスをされ
ていますね、感染予防で。

○市民G

ああ、そうですか。

○西岡市長

はい。かなり努力されています。特に朝は相当混みますので。市民の方一人一人の感染
しない、感染させないという意識の保持というものが、何よりも必要になってくると思ひ
ますので、うちとしても一生懸命頑張つてまいります。御提案は御提案として承りました。

ありがとうございました。では、私からは以上です。

○司会者

それでは、お時間過ぎておりますので、これで、今回については終了させていただきたいと思います。以上をもちまして、令和2年度第1回市民と市長の座談会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○西岡市長

ありがとうございました。

○司会者

アンケートにつきましては、退室の際、回収いたしますので、御協力をお願いいたします。